

あとがき

今後、マネジャーは2つの価値観の狭間に立たされる可能性がある。それは、「全体と個人」をはじめ「活躍と停滞」「競争と協調」「管理と自律」「量の拡大と質の進化」など相対的な価値観である。しかし、こうした相対的な価値観を持つことは悪いことではなく、むしろ片方だけの価値観しかないことに問題があるのかもしれない。

中国古代の老荘思想に、すべてのものは陰と陽で成り立つという「陰陽論」があるが、陰と陽は相反しつつも一方がなければもう一方は存在せず、双方の存在と調和が必要とされる。2つの価値観を同時に考えていくことは、組織のバランスを保つ上でも重要ではないだろうか。

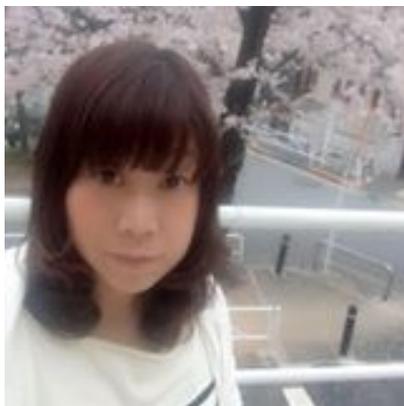
老荘思想は魏晋南北朝時代の老子と荘子の思想を合わせた学説だ。南方中国の個人主義的傾向を反映した東洋の代表的思想でもある。老荘思想研究者の田口佳史氏は、「イーズ未来共創フォーラム(2015)」のインタビューで、「老荘思想の陰陽論は、一輪車ではなくて二輪車だから安定感があり一方が進めば進むほどもう片方の重みが必要となる」と言っている。

また、陰陽は陰のなかに陰陰、陰陽があり、さらに陰々陽、陰陽々など、実は **64 ものパターン**に分類されるほど多様性に富み、古代の中国人は「多様なのがこの世」と認識していたという(「人事の哲学」人事専門誌『Works』112号 リクルートワークス研究所)。相反している価値観のバランスを取るということは、互いの価値観を争うのではなく相互で認め合い補完することを指す。

どちらも否定できない2つの価値観の調和を考えるという点では、インクルージョンの考えそのものである。

「働き方改革 個を活かすマネジメント」 大久保幸夫・皆月みゆき 著  
日本経済新聞出版社 (2017/11/17)

# 講座受講者の声



■自由が丘サクラボロー 代表 青木絵美さん（貸しギャラリー経営）

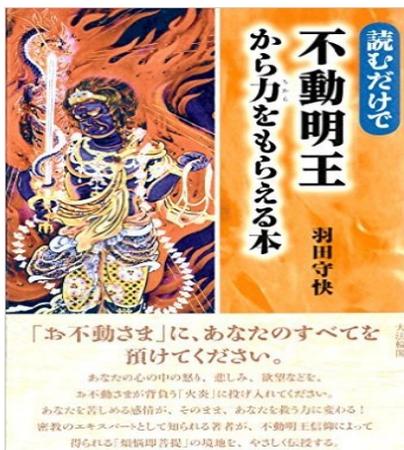
「若いうちにこそ知るべきこと」

易経って何？とか、とっつきにくいんじゃないかな？とかあるかもしれませんが、すごくおもしろいんですよ。私流に簡単に言うと、**生きづらさを軽減できる実践的な古典**という感じです。易経の64の物語には世の神羅万象、そしてその結末が描かれています。それだけ奥が深く、たとえばいきなり原本となると全く歯が立たないと思うので**噛み砕いて解説していただけるのはとてもありがたい**と思うのです。全てのことは留まることなく同じ日は二度と無い。たとえば春夏秋冬でいらない季節はないわけで、ただ**その時に合った過ごし方をしなければならぬ**ということ。わかっているようでわかっていないことを改めて意識する機会にもなります。こういうことは本当に若いうちにこそ知るべきことなんだという気がします。ぜひ学校の授業に取り入れてもらいたいです。

■株式会社はぴつく 代表取締役 眞喜屋実行さん（販促専門家）

「自分の立ち位置を改めて考えることができ、その対処も考えられるのでやるべきことが見つかった」

「易経ってすごい、美しい」と感じました。意図して作られたのか分かりませんが、色々なことがうまく結びついている。今、自分の立ち位置を改めて考えることができ、その対処も考えられるのでやるべきことが見つかった。**大失敗をしづらくなる気がします**。長く残っているものは、理由があると思うんです。クラシックの名曲でも、映画の名作でも、有名な話でも、それは、作品としてのすばらしさだけでなく「本質」をつけているからではないかと思うんです。そんなに**長く残ってるってことは、本質をつけている以外に考えられん**のです。苦労している今、どんな判断基準を持てばいいのか？上り調子の今、どこに落とし穴があるのか？などなど、3000年の歴史から自分にインストールして活かして、損があるはずないです。易経を知って、得することはあっても損はしないですよ、絶対！



■金翅鳥院（鎌倉・天台寺門宗寺院）住職 羽田守快さん

「30代40代の中間層の皆さん、易に親しんでもらえたらいいな」

「君子以て虚にして人を受く」とは易経の卦の一つ「沢山咸」の言葉です。人を受け入れるのには虚であることによって、かえて彼を知ることができるのだということです。今「義理易（ぎりえき）」を勉強しています。義理易は哲学としての易です。でも学問的哲学というより**実践哲学**です。比重は世の中はこうだという宇宙観より、**だからどう生きるかの方が重い**感じ。月に一回、飯田先生という方について東京支所長と二人で勉強させていただいております。**とても面白い**です。この易経の言葉は**実に衝撃的**でした。つまり最初から先入観や憶測のアンテナを張らず、**虚心にただ相手を見ていくところに真の人物の見極めができる**のだというのです。この易の教えを大事にして最近はなるべく虚心に人と相對するようにしています。古来、易は人生50代になって学ぶものと言われていたらしいけど、私は少し遅かったね。本当はもっと若い30代40代の中間層の皆さん、易に親しんでもらえたらいいなという思いです。

講演・企業研修・セミナーお問い合わせ先

TEL 03-3884-1027

〒121-0813 東京都足立区竹の塚2-23-13-105

孚（まこと）事務所株式会社

代表取締役 飯田吉宏

(URL:www.m-jimu.com E-mail:info@m-jimu.com)